

ホンジュラス内政・外交（２０１０年５月）

【内政】

１ メーデーにおけるデモ行進

１日、テグシガルパ市においてメーデーを記念した毎年恒例のデモ行進が行われた。例年のデモと異なり、要求事項の中に、公正な賃金額の他、「制憲議会の設立」や「セラヤ前大統領の帰還」等の政治的要素が加わった。なお、右デモ行進には、シオマラ・セラヤ夫人が参加した。

２ 真相究明委員会発足式典の実施

４日、真相究明委員会発足式典が行われた（於大統領府）。右式典に出席したインスルサＯＡＳ事務総長は、ホンジュラスのＯＡＳ復帰への重要事項として、①セラヤ前大統領が迫害を受けることなくホンジュラスへ帰国すること、及び②全ての中米諸国がロボ政権を承認することを挙げた。

３ 最高裁判事の解任処分

１９日、最高裁は、法令（司法官がスト等に参加することを禁じる）に反して政治デモに参加した最高裁判事４名を解任処分とした。これに対し、「セラヤ派判事」に対する不当な措置ではないかとの批判も、ロボ大統領及び国際社会の一部でなされた。

【外交】

１ ＥＵ中南米サミット

ベネズエラ、伯、エクアドル等南米の一部の国は、ロボ大統領のＥＵ中南米サミット（於スペイン）出席に対し、ロボ大統領が出席するならばボイコットも辞さないとの圧力を掛けたところ、ロボ大統領は、スペイン訪問は行ったが同サミット（１８日）には出席せず、ＥＵ中米サミット（１９日）にのみ出席した。

２ ロボ大統領の外交活動

（１）ロボ大統領のアリアス・コスタリカ大統領との会談（３日）

３日、ロボ大統領はコスタリカを訪問（アビラ労働大臣及びマルティネス文化大臣同行）し、アリアス・コスタリカ大統領と会談を行った。右会談において、アリアス大統領は、８日の退陣後も引き続きホンジュラスの国際社会復帰のために尽力するつもりであり、また、メキシコ及びブラジル大統領に対してホンジュラス政府を承認するよう説得するつもりである旨述べた。

（２）コロン・グアテマラ大統領の当地来訪（５日）

５日、コロン・グアテマラ大統領がホンジュラスを訪問し、ロボ大統領と会談を行っ

た（於大統領府）。右会談においては、中米における関係正常化の進捗、麻薬犯罪及び組織犯罪対策等につき話し合われた。会談終了後、コロン大統領は、本年2月に行われたリオ・グループ会合（於メキシコ）において中米諸国がホンジュラスを承認すればホンジュラスとの関係を正常化すると多くの国が確約したと述べ、ホンジュラスのSICA復帰は至急実現しなければならないと述べた。

（3）ロボ大統領と武正外務副大臣の会談（7日）

7日、コスタリカ大統領就任式典に出席するためコスタリカを訪問したロボ大統領は、武正外務副大臣と会談した（ギジェン大統領府大臣、カナワティ外相、アルバレス治安大臣ら同席）。ホンジュラス政府は、ホンジュラスの大部分に利益をもたらす議題内容だったと述べ、本会談が同国にとって非常に有益なものであったと発表した。また、ロボ大統領は、日本政府は環境保護プロジェクトを始めとする様々なプロジェクトの実行・発展に大変前向きであると評した。

（4）ロボ大統領、コスタリカ大統領就任式典出席（8日）

8日、ロボ大統領は、コスタリカ大統領就任式典出席のため訪れたコスタリカにおいて、モレノIDB総裁、カルデロン・メキシコ大統領（ロボ大統領就任以降、初の両国首脳会談）、フェリペ・スペイン皇太子、ウリベ・コロンビア大統領、フネス・エルサルバドル大統領、マルティネリ・パナマ大統領と会談した。

（5）ロボ大統領のコロンビア訪問（24日）

24日、コロンビアを公式訪問したロボ大統領は、ウリベ・コロンビア大統領と会談し（於大統領府）、会談後、両大統領は共同宣言に署名した。また、ロボ大統領は、国会幹部及び最高裁裁判官とそれぞれ会談した他、モレーノ・ボゴタ市長より市の鍵を授与された。

（6）ロボ大統領のペルー訪問（26日）

26日、ロボ大統領とガルシア・ペルー大統領は、ペルー・リマ市内において、3つの協定（①マネーロンダリング対策にかかる協力協定、②麻薬・覚醒剤の生産、消費抑制、麻薬患者の社会復帰及び密輸対策にかかる協力協定、③イベロアメリカ外交文書網（RAD I）の枠組における外交文書の保存にかかる協力協定）に署名した。ガルシア大統領は「ロボ大統領は国民の大多数が参加した選挙で圧勝した」旨述べてロボ大統領の正統性を承認し、ホンジュラス政府の外交努力を支援していく旨再確認した。

また、ロボ大統領はペルー滞在中、ホンジュラスへの投資を検討している企業代表や報道陣と会談した。

3 一時的身分保障（TPS）の延長

4日、米国移民局（USCIS）は、米国に在住するホンジュラス人（7万5千人）の本年7月5日に期限切れとなる一時的身分保障（TPS）を18ヶ月間（2012年1月5日まで）延長することを発表した。TPSは、1998年11月にホンジュラス

を襲ったハリケーン・ミッチの被害を乗り越えるため、1999年に米国よりホンジュラスに対して付与されたもので、TPS延長措置は今回で9回目となる。

4 ホンジュラス・CARICOM関係

6日、レガラド農牧大臣は、ガルシア・カリブ共同体（CARICOM）農業大臣と会談を行い、ホンジュラス・CARICOM間の農業分野における協力関係強化及び食料安全保障面における情報交換につき話し合った。

5 米国との軍事協力再開

17日、米国とホンジュラスは正式に軍事面での協力を再開した。同日、フレイザー米南方軍司令官はホンジュラスを来訪し、パスクア国防大臣と会談した（フレイザー米南方軍司令官のホンジュラス来訪は今回が初めて）。

6 オバマ米大統領及びカルデロン・メキシコ大統領、ホンジュラスのOAS復帰を支持

19日、オバマ米大統領とカルデロン・メキシコ大統領は米国ホワイトハウスで会談した後、ホンジュラスのOAS復帰を支持する旨発表した。共同声明によると、両大統領はホンジュラスの国内和解プロセスを支持するとともに、ホンジュラスが早期にOASに復帰することを支持した。また、2009年6月28日に起こったクーデター後、民主的、法的秩序を回復するため、同年11月の大統領選挙以降ホンジュラスが実施してきた一連の重要な政策を評価した。